

## 令和 7 年度 陽東中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す生徒像含む）

生徒一人一人の健康でたくましい身体，個性を生かした創造的な知性と技能，豊かな心情，強靱な意志，正しい社会連帯意識を養い自己実現を通して国家社会の進歩発展に貢献できる人間を育成する。

- (1) 自ら学び考える生徒（本気） (2) 豊かな心で思いやりのある生徒（勇気）  
 (3) 気力あふれるたくましい生徒（元気） (4) 進んで活動をする生徒（根気）

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

国内外の政治・経済・環境・情報など社会の急激な変化に伴い，学校や生徒を取り巻く環境の変化や価値観の多様化が進む中，学校教育は様々な課題を抱え，それらへの対応が求められている。このような中において学校は生徒に確かな学力を身に付けさせ，豊かな心を育むこと，ひいては主体的な判断力を持ち，これからの社会をたくましく生き抜くことのできる力を身に付けさせることが最大の使命である。その使命を果たすためには，教職員の専門職としての資質を高めることが重要である。また，規範意識やコンプライアンス意識を高め，生徒，保護者，地域社会に信頼される教職員でなければならない。そして，学校，家庭，地域がそれぞれの教育力を発揮するとともに，一層連携を深め，開かれた学校づくりを推進する必要がある。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 確かな学力の定着を目指して，教育活動のねらいを明確にし，分かる授業の実践と一人一人のよさを生かす活動の充実に努める。  
 (2) 生徒が自主的，自発的に活動する場の充実に努め，基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに豊かな心の育成に努める。  
 (3) たくましく生きるために健康や安全に留意し，自己の目標に向かって挑戦する活動の充実に努める。  
 (4) 教職員の共通理解及び情報共有の下，配慮を要する生徒に対して組織体制を確立した指導に努める。  
 (5) 温かく潤いのある教育環境づくりに努める。  
 ○(6) 家庭や地域社会及び地域学校園との連携を深め，信頼される学校，地域とともにある学校づくりに努める。  
 ○(7) 教育公務員としての自覚と責任をもちコンプライアンスを遵守するとともに専門職としての資質向上に努める。また，ICTを有効活用した校務の見直しや，組織的な対応を実践することにより，仕事の効率化を図るとともに，勤務時間を意識した働き方を推進する。

## 【陽東地域学校園教育ビジョン】

地域の教育力を生かし，地域とのかかわりを通して，確かな学力の定着を図り，心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

## 4 教育課程編成の方針

学習指導要領は「社会に開かれた教育課程」を実現するための方策として以下の3つを柱に据えている。

- (1) 地域・家庭との連携・協働により，「社会に開かれた教育課程」を実現する体制作り  
 (2) 次世代に求められる資質・能力を，カリキュラム・マネジメントを通じて実現していくための組織運営や指導体制の在り方  
 (3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めるための教員の資質向上  
 このことを踏まえ，基礎学力の定着を図りながら，豊かな心を育成し生徒一人一人の個性や能力を伸ばして，夢をはぐくむとともに，地域とともにある学校づくりを目指し，組織としての取組を強化しながら特色ある教育課程の編成を行う。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・ 学校経営への参画意識の高揚と組織的な企画・運営の推進
- ・ 学校や地域の実態に即した教育計画の作成
- 専門職としての研修の推進
  - ・ 教育目標実現のための学年・学級目標の設定，具体策の明確化と実践
  - ・ 組織体制を確立し連携協力した特別支援教育の推進

(2) 学習指導

- ・ 一人一人に学ぶ楽しさを体得させる学習指導の工夫（豊かな学び創造プロジェクト）
- ・ 市の方針を踏まえた授業時数の確保（実質的指導時間の確保）
- ・ 学習目標の明確化と振り返り，学習過程の工夫，達成状況の確認
- ・ 個に応じた学習の推進（習熟度別学習の充実等）
- ・ 国・県・市の学力調査等の円滑な実施と結果の分析活用
- ・ 主体的に考え表現できる言語活動の充実
- 自主的な学習習慣の定着を培う指導
- ICT活用の共有化による授業の効率化と学力の向上
- キャリア教育の充実
  - ・ 「道徳」授業の円滑な実施と適切な評価
  - ・ 道徳的実践力の醸成・向上

(3) 児童生徒指導

- ・ 豊かな心を育てる読書活動の推進
- ・ 認め合い支え合う集団づくりを通じた人権教育の推進
- 福祉・ボランティア活動の推進
  - ・ 潤いのある教育環境づくりの推進
- 基本的生活習慣を身に付けさせる指導の充実
  - ・ スマートフォンや携帯電話及びSNS等の正しい利用法の指導と問題の未然防止
  - ・ 生徒のよさを見取り，自己有用感や自己肯定感を高める指導の充実
  - ・ いじめ等の問題行動の未然防止と早期対応
  - ・ 校内美化意識の高揚と清掃の意欲的な実践

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ・ 「部活動の方針」に基づく適切な部活動の推進・充実
- 体力の向上を目指す態度の育成
  - ・ 発達段階に応じた薬物乱用防止，性に関する指導の充実
  - ・ 感染症予防と健康管理能力の育成
  - ・ 安全教育の充実・徹底
- 食に関する指導と望ましい食習慣の推進

【特色ある学校づくり】（「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

- ◇ 心をたがやす「花いっぱいプロジェクト」の実施 ・ 学区内公園清掃活動「町も心もぴかぴか活動」
- ◇ 昇降口前・中庭清掃（NFV「ニュー フリーダム ボランティア」）
  - ・ 地区体育祭等へのボランティア参加 ・ ペットボトルキャップ・アルミ缶回収による車椅子寄贈
- ◇ 生き方を考えさせるキャリア教育（ドリームデザイン教室等）

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通，地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
-------------------------	------	----------	-----	----

<p>1- (1) 確かな学力を育む教育の推進</p>	<p>A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 →生徒肯定的回答 90%以上 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 主体的に考え表現できる言語活動を充実させ、生徒が「意見を出し合い、共に考える」学び合いの場を設定し、積極的な学習態度を育てる。 ② 生徒の考えを引き出し、深める発問や板書を工夫し、生徒が自分の想いや考えを自由に言える授業の雰囲気づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.9%（昨年度 91.1%）で目標を 1.1 ポイント下回った、教職員の肯定的回答は 98.1%で目標を 8.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒が主体的に考え表現できる言語活動を充実させる場の設定を工夫する。 ・生徒の考えを引き出すような指導技術を工夫する。わかる実感を持てるような学習の進め方を工夫できる授業にしていく。</p>
<p>1- (2) 豊かな心を育む教育の推進</p>	<p>A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 アンケートの「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 道徳科の授業を中心に学校教育活動を通して、「思いやりの心をもって人と接するとともに、人間愛の精神を深めること」を指導していく。 ② 道徳科の授業を通して、「父母、祖父母を敬愛し、家族の一員として自覚をもって充実した生活を築くこと」を指導していく。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 98.1%で目標を 8.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・すべての学校教育活動を通して、思いやりの心をもつよう指導していく。 ・道徳の授業を工夫・改善するとともに、各学年 1 回、授業公開を行う。</p>
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 →生徒肯定的回答 85%以上 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学年・学級目標、学校行事のスローガン等を教室に掲示し、それに向けての各自の目標を明確にするとともに、協力して目標に向かって努力する態度を育成する。 ② 目標を提示するだけでなく、定期的に振り返りを実施し、達成できない点を確認する。 ③ 「ドリームデザイン教室」等を実施し、生き方を考えさせるキャリア教育を実践する。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 85.2%で目標を 0.2 ポイント上回った。教職員の肯定的回答は 96.3%で目標を 6.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教室等の掲示を工夫する。 ・目標の達成状況を確認する。 ・「ドリームデザイン教室」「宮っ子チャレンジウィーク」等キャリア教育の充実を図る。</p>
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 アンケートの「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」 →生徒肯定的回答 85%以上 →教職員肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 家庭科や保健体育科、給食等により健康への意識の高揚に努める。日常生活で感染症予防に努める。 ② 交通安全教室や避難訓練、登下校指導、日々の指導を行い、安全への意識高揚に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.7%で目標を 5.7 ポイント上回った。教職員の肯定的回答は 92.6%で目標を 7.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・体育の授業や体育的活動の充実を図る。体育的行事では生徒主体で計画・活動する場面を設定する。 ・地域学校園で連携を図り、「運動好き」の児童生徒の育成に努める。</p>

<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」「生徒は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 →生徒肯定的回答 85%以上 →教職員肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 自分自身を見つめなおし、長所と短所の理解に努め、目標に向かって努力する態度の育成を図る。</p> <p>② お互いの性格や意見を尊重し、協力し合いながら、課題解決につながる指導・助言をする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.6%で目標を 3.6 ポイント上回った。教職員の肯定的回答は 96.3%で目標を 11.3 ポイント上回った。(昨年度 92.5%)</p> <p>【次年度の方針】 ・学校行事を含めた活動や振り返り等を通して、生徒が達成感を得られる場を設定する。 ・生徒間や生徒と教師間のコミュニケーションの充実を図り、教師からは生徒の良さを誉める言葉を増やしていく。</p>
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「私は、外国語活動(英語)の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 →生徒肯定的回答 80%以上 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 英語で伝え合うことの楽しさを実感するために、様々な英語表現を用いた言語活動の場を多く取り入れた英語の授業を実践する。</p> <p>② ALT の給食や学校行事への参加などを通して、生きた英語に触れる機会を充実させる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 75.9%で目標を 4.1 ポイント下回った(3年連続でしたまわっている)。教職員の肯定的回答は 92.6%で目標を 2.6 ポイント上回った。(昨年度 94.3%)</p> <p>【次年度の方針】 ・英語で伝え合うことの楽しさを実感させる。 ・対話活動を積極的に行うようにする。 ・授業の中で場面設定を工夫し、ペアやグループでコミュニケーションする機会を与える。</p>
	<p>A7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 アンケートの「生徒は、宇都宮の良さを知っている。」 →生徒肯定的回答 80%以上 →教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 各教科の授業で、宇都宮ブランド(郷土料理や大谷石、ジャズ、子育て支援等)について触れる。</p> <p>② 郷土の伝統と文化を大切に育てる態度を育てる内容項目の道徳の授業で、導入や教師の説話等で宇都宮について触れる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.6%で目標を 4.6 ポイント下回った。教職員の肯定的回答は 92.6%で目標を 12.6 ポイント上回った。(昨年度 77.4%)</p> <p>【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の指導の工夫を図り、宇都宮ブランドについて触れる。また、まとめたレポートを掲示・発表する。 ・総合的な学習の時間を使い、生徒自身に宇都宮の良さについて調べたり考えさせたりさせる。 ・地域の伝統や文化を取り上げた教材をもとに道徳の授業を行う。また、宇都宮について知れる題材を取り入れる。</p>

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 生徒は、デジタル機器や 図書等を学習に活用して いる。 【数値指標】 アンケートの「生徒は、デジ タル機器や図書等を学習に活 用している。」 →生徒肯定的回答 80%以上 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① chromebook 等情報機器の基本 的操作方法を習得し、有効に活用 する技能を身に付けさせること で、情報活用能力を育てる。 ② 目的に応じた各種辞書・辞典や 問題解決のための一般図書資料 を積極的に利用する態度を育て る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.8% (昨年度より 1.5 ポイント上昇) で目標を 2.2 ポ イント下回った。教職員の肯定的回答 は 98.1% で目標を 8.1 ポイント上回 った 【次年度の方針】 ・授業でデジタル機器を使用する機会 を増やす。また、各教科でも積極的に 活用したり、レポートを作成したりす る。 ・情報機器を有効に活用し、情報を読み 解く能力を身に付けさせるようにす る。 ・調べ学習において、デジタル機器のみ でなく、一般図書資料も合わせて積極 的に活用し、より深い学習となるよう 指導する。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 生徒は、「持続可能な社会」 について、関心をもっ ている。 【数値指標】 アンケートの「生徒」は、「持 続可能な社会」について、関心 をもっている。」 →生徒肯定的回答 75%以上 →教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 社会や理科、英語等の授業で、 化石燃料などの有限な資源の枯 渇に備え、太陽光や風力などの再 生エネルギーに目を向けさせる。 ② 新聞記事やニュースなどの情 報から、環境問題や災害、事故等 を取り上げ、身の回りに起こって いる出来事に関心を持たせる。 ③ 教室にポスターを掲示したり、 パワーポイントや資料を使って 視覚に訴える資料を準備したり して、周知を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 74.8% で目標を 5.2 ポイント下回った (3 年連続で下 回っている)。教職員の肯定的回答は 79.6% (昨年度より 13.6 ポイント上 昇) で目標を 4.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・化石燃料などの有限な資源の枯渇、再 生エネルギーに関心をもたせる工夫 をする。 ・SDGs の 17 の目標に関心をもたせると ともに、新聞記事やニュースなどの情 報を取り上げる。また、総合的な学習 の時間や学級活動でおおよその内容 を確認させる。 ・中学生として特に必要と考えられる 項目を精選し、教科・領域、その他の 活動の中に割り当て、一歩踏み込んだ 学習を行わせる。 ・各委員会で、SDGs に関する活動を取り 入れる。 ・ポスター掲示などで周知を図る。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A 10 教職員は、特別な支援を 必要とする生徒の実態に 応じて、適切な支援をして いる。 【数値指標】 アンケートの「教職員は、 特別な支援を必要とする児童 (生徒) の実態に応じて、適切 な支援をしている。」 →教職員肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする生徒 について、必要に応じて適切な対 応ができており、今後も継続して いくことで、生徒一人一人にと って居がいのある学校作りを目指 す。 ② ユニバーサルデザインの重要 性を教職員や生徒がより一層理 解できるよう、共通理解を図る資 料等を作成・配布する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 98.1% で目標 を 3.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・特別な支援を必要とする生徒の現状 の把握に努め、外部機関との連携や校 内支援体制の充実などを図り、適切 な支援を行う。 ・教職員や生徒・保護者の特別支援教育 についての啓発を図る。</p>

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 →生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 全校集会、学年集会、また学級活動を通して、「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識をもたせる指導をしていく。 ② いじめ根絶集会などの生徒の自主的な活動を支援し、いじめが許されない行為であることへの更なる意識の高揚に努める。 ③ 道徳科の授業を通して、相手の立場や個性を否定する「いじめ」を絶対に許さないという道徳的実践意欲・態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.5%で目標を 6.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・「いじめをしない・させない・見逃さない」という意識をもたせる指導をする。 ・いじめ根絶集会を通して、生徒一人一人がいじめは許されない行為であることの意識の高揚に努める。 ・道徳の授業を通して、生徒に「いじめ」は絶対に許さないという態度を育てる。 ・さまざまな便りを通して、保護者への啓発を行う。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の生徒を大切にし、生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 →生徒肯定的回答 90%以上 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 家庭との協力関係をより一層強めるために、保護者との電話連絡や家庭訪問をこまめに行い、SCや支援員との連携を密にすると共に、市教育センター等の関係機関との連携も強めていく。 ② 宮っ子ダイアリーの有効活用をより強く推し進める。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.5%で目標を 5.5 ポイント上回った。教職員の肯定的回答は 98.1%で目標を 8.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・家庭との連携・協力をより一層強めるための工夫・改善をするとともに、関係機関との連携方法を明確にする。 ・一人一人の生徒を大切にす言葉かけや傾聴の姿勢を大切にす、不登校を生まない学級経営の工夫をする。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 アンケートの「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 →生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生徒が協力しながら意欲的・主体的に活動でき、達成感や自己肯定感を得られるような場を設定しつつ、特別な配慮を必要とする生徒にも学業指導の充実を図りながら、「居がい」のある学校を目指す。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.8%で目標を 5.8 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・さらに安心・安全な学校づくりに努め、達成感や事項肯定感が得られるような生徒の活躍の場を工夫する。 ・生徒一人一人が自らの力を生かし、自己実現を図ることを目的とした学業指導の充実を図る</p>
<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 →生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生徒の学習意欲を喚起するとともに、「ねらい」「学び合い」「まとめ」「振り返り」を適切に位置付け、「分かる・できる授業」づくりに努める。 ② 個に応じたきめ細かい指導を行い、習熟度別学習やT・Tなど指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.0%で目標を 4.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒が学習意欲を喚起する工夫をする。 ・個に応じたきめ細かい指導を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・各学年で、特別な支援が必要な生徒の共有を徹底する。 ・生徒は授業を楽しんでいる様子が見られる一方、課題などの提出について改善が求められるため、指導を加えていく。</p>

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 →教職員肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 職員間の共通理解はもとより、外部関係機関及び地域ボランティアとの連携もさらに強めることで、業務の効率化を図っていく。 ② 教職員全員が、同じベクトルで目指す学校像に向かって業務が進められるよう、学校マネジメントシステムを生かしたPDCAサイクルを回していけるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は94.4%(昨年度より7.4ポイント上昇)で目標を9.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校課題に組織的に対応するとともに、業務の分担を明確にし、業務の効率化を図る。 ・目指す生徒像や学校像に向けて、業務の主務者等が取組のねらいを明確にし、全職員で横断的な業務遂行がなされる環境作りを図る。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 →教職員肯定的回答 70%以上</p>	<p>① 業務の効率化を図るとともに、業務に必要感をもって取り組めるよう、業務の第一義をしっかりと確認しながら業務に当たる。 ② 「リフレッシュデー」の確実な実施や各自のタイムマネジメント向上など、意識改革に取り組んでいく。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は81.5%(昨年度より11.7ポイント上昇)で目標を11.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・業務の効率化のために、書類等のデータベース化や昨年度からの引き継ぎを確実に行う。 ・目標とする退勤時間や会議終了時間を設定するなど、一人一人がタイムマネジメントを意識し、業務の簡素化や内容の精選に努める。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 義務教育9か年で目指す子供像を明確にし、基礎期、活用期、発展期それぞれの到達目標を確認しながら、「重点化を図る指導内容」について、小中の情報交換を十分に行い、具体的な指導を積み重ねていく。 ② 小中協働の意識や小中一貫教育への参画意識を高めるために、分科会代表者会議及び運営委員会で、重点課題や具体策の確認などを話し合う。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は90.7%(昨年度より11.5ポイント上昇)で目標を0.7ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・陽東地域学校園の実態に即して、重点化を図る指導内容について、小中の情報交換を行い、より具体的な指導について共有する。 ・オンラインの活用などの継続的な小中間の連携や合同行事等により、小中協働の意識を高める工夫を図る。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 →保護者肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 地域人材・学生ボランティアの効果的な活用を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。 ② 家庭・地域・企業等と連携しながらキャリア教育や命の授業等における専門性の高い外部講師による講話等を実施する。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は90.4%で目標を5.4ポイント上回った。(昨年度88.7%) 【次年度の方針】 ・オープンスクール週間を設定し、保護者や地域等に、より開かれた学校運営の様子を見ていただく機会を設けたり、「総合的な学習の時間」の指導計画の見直し、地域や社会と関わる学習を取り入れたりし、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。 ・大学や人材バンク、ハローワークなどと連携し、実践的な学びの機会を増やす。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 安全点検の確実な実施と修繕に努める。 ② 清掃美化コンクールの実施により、清掃活動状況の改善が図られてきたので、今後も継続していく。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 98.1%で目標を 8.1 ポイント上回った。(昨年度 96.2%) 【次年度の方針】 ・危険箇所の早期発見に努める。 ・清掃活動への意欲を高める工夫をする。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができています。 【数値指標】 →教職員肯定的回答 85%以上</p>	<p>① ICT を活用するための環境を整えるとともに、適切に活用した学習活動の充実が図れるよう指導力の向上に努める。 ② ICT を活用した学びの場を設定し、分かる授業を実施する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 94.4%で目標を 9.4 ポイント上回った。(昨年度 90.6%) 【次年度の方針】 ・ICT を活用するための環境を整える。 ・授業内容を工夫し、計画的に ICT を活用した授業を実施する。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 アンケートの「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」 →生徒肯定的回答 90%以上 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生徒会執行部、生活安全委員会等と協力し、あいさつ運動の充実を図り、その定着を目指す。 ② あいさつと返事がすべての集団活動の基本であることに気付かせ、学校生活のあらゆる場面で習慣化を目指す。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.8%で目標を 5.8 ポイント上回った。教職員の肯定的回答は 90.7% (昨年度より 13.3 ポイント上昇)で目標を 0.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会や生活安全委員による、朝のあいさつ運動の充実を図る。 ・あいさつや返事が学校生活の基本であることを再認識させる。</p>
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 アンケートの「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 →生徒肯定的回答 90%以上 →教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学年委員会などと協力し、5分前行動、3分前着席など、時間に余裕を持って行動できるよう働きかけていく。また、教師自らも率先して行動する。 ② 生活安全委員会などと協力し、更なる規範意識の育成やマナーの向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.4%で目標を 4.4 ポイント上回った。教職員の肯定的回答は 94.4%で目標を 4.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会や学年委員が中心となり、きまりやマナーを守ろうとする態度を培う。 ・教師が率先垂範を心掛ける。 ・生活安全委員会が中心となり規範意識の向上を図る。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B3 教職員は、「学校生活アンケート」や教育相談などを定期的実施し、生徒の悩みに適切に対応している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、イヤな思い調査や教育相談などを通して、生徒の悩みに適切に対応してくれる。」 →生徒肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 日常生活全般において校内巡回や宮っ子ダイアリーの確認、定期的な教育相談や「学校生活アンケート」(いじめ調査)を活用し、いじめへの即時対応や早期発見・未然防止に努める。 ② 「いじめゼロ強調月間」と関連して学級活動での話し合い活動の推進を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.6%で目標を 6.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・各種調査等を活用し、いじめの早期発見・未然防止に努める。 ・学級活動での話し合い活動の推進を図る。</p>

<p>B4 生徒は、口腔の清潔（歯みがき・ぶくぶくうがい等）に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、歯みがきやぶくぶくうがいを実施し口腔の清潔に努めている」 →生徒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 担任教諭による日常指導や、生徒会保健委員会による定期的な広報活動や歯みがき・ブクブクうがいチェックを行い、衛生習慣を定着させる。</p> <p>② 地域学校園の取組（カラーテスター使用の歯みがきチェック等）を行い、家庭での丁寧な歯みがきの習慣化を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.9%（昨年度より 3.6 ポイント下降）で目標を 4.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・保健委員会を中心に歯みがきチェック等を充実させ、衛生習慣を定着させる。 ・地域学校園で連携し口腔指導に努める。</p>
<p>B5 生徒は、体育の授業や体育的行事、部活動等に意欲的に参加し、体力向上に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、体育等の授業や体育的行事、部活動に意欲的に参加し、体力向上に努めている。」 →生徒肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 体育の授業で補強運動等において工夫を凝らすとともに、生徒が意欲的に体育的行事や部活動等に参加できるよう、事前指導の充実を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.3%（昨年度より 5.8 ポイント上昇）で目標を 14.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・体育の授業や体育的活動の充実を図る。体育的行事では生徒主体で計画・活動する場面を設定する。 ・地域学校園で連携を図り、「運動好き」の児童生徒の育成に努める。</p>
<p>B6 教職員は、定期的に登校指導や下校指導を行い、交通事故防止に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、定期的に交通指導や登校指導を行い、交通事故防止に努めている。」 →生徒肯定的回答 95%以上 →教職員肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 年度初めの計画通りに、通学路において立哨指導をする。</p> <p>② 学校行事の後に集会を開き、全校生徒に注意喚起をする。また、学年集会や学級においても「自分の命は自分で守る。」指導を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.6%で目標を 1.6 ポイント上回った。教職員の肯定回答は 98.1%で目標を 3.1 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・通学路において立哨指導をする。 ・集会時に全校生徒に注意喚起をする。学年集会や学級においても「自分の命は自分で守る。」指導を行う。</p>
<p>B7 生徒は、校内外のボランティア活動へ積極的に参加し、自主性・主体性を身に付けるよう努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、校内外のボランティア活動に積極的に参加し、自主性・主体性を身に付けるよう努めている。」 →生徒肯定的回答 70%以上 →教職員肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 生徒が校内のボランティア活動や、地区体育祭・文化祭等の行事へ参加しやすくなるよう情報提供を促すとともに、家庭・地域・企業等との連携を図り、生徒のボランティア精神を育成する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 78.4%（昨年度より 22.5 ポイント上昇）で目標を 8.4 ポイント上回った。教職員の肯定的回答は 100%で目標を 15 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ボランティアの意義を理解させ、校内外のボランティア活動への参加をしやすくなるよう、学年やクラスのクラスルームで連絡していく。 ・あいさつ運動やNFVなど、生徒会活動から委員会活動に切りかえ、学期に 1 回くらい各個人で参加できるよう実施方法を工夫する。</p>

<p>B8 生徒は、交通法規を守り、交通安全に気をつけて登下校をし、交通事故防止に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、交通ルールやマナーを守って登下校している。」 →生徒肯定的回答 90%以上 →教職員肯定的回答 90%以上 →保護者肯定的回答 90%以上 →地域住民肯定的回 90%以上</p>	<p>① 通学路において、危険な場所やマナーの悪い場所を確認し、立哨指導を行い、現状の把握に努める。</p> <p>② 必要に応じて集会や放送などで全校集会に注意喚起を行う。「自分の命は自分で守る」指導を徹底する。</p>	<p>A</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の肯定的回答は 86.7% (昨年度より 11.3 ポイント下降) で目標を 3.3 ポイント下回った。教職員の肯定的回答は 79.6% で目標を 10.4 ポイント下回った。保護者の肯定的回答は 91.9% で目標を 1.9 ポイント上回った。地域住民の肯定的回答は 100% で目標を 10 ポイント上回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室を通して、通学路の危険箇所や注意点を確認し、安全な登下校ができるように指導を行う。</li> <li>集会時、全校生徒に注意喚起をする。学級でも交通安全の指導を常時行い、交通事故の未然防止に努める。</li> </ul>
<p>B9 生徒は、食の大切さを理解し、食に対する感謝の気持ちを深め、心身の健康に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、食の大切さを理解し、食に対する感謝の気持ちを深め、心身の健康に努めている。」 →生徒肯定的回答 90%以上 →保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、「食育だより」や給食時の放送などで食の大切さを理解させる。</p> <p>② 地場農産物の積極的な利用や、郷土料理や伝統料理を食べることを通して、感謝の気持ちを深めさせる。</p> <p>③ 食品ロスの削減や SDGs について学ぶことを通して、食に関する豊かな心を育ませる。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の肯定的回答は 93.1% で目標を 3.1 ポイント上回った。保護者の肯定的回答は 88.8% で目標を 8.8 ポイント上回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食育だよりや一口メモ等を活用して、食への興味関心を高める工夫をする。</li> <li>郷土料理や伝統料理を食べ、食品への感謝の気持ちの育成に努める。</li> <li>食品ロスなどの SDGs について、委員会活動を通し全生徒へ活動を進める。</li> </ul>

### 【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

#### 【学校運営】

- ・特別な支援を必要とする生徒の現状の把握をさらに深め、外部機関との連携や校内体制の充実などを図る必要がある。
- ・業務の効率化の視点のもと、教職員の協働意識やタイムマネジメント意識の向上に努めていく。
- 小学校への乗り入れ授業の実施により、小中一貫教育への共通理解を図ることができた。
- ・特色ある教育活動の展開のため、さらに家庭・地域・企業等と連携するとともに、ホームページ等を通じて情報発信に努めていく必要がある。

#### 【学習指導】

- 地域学校園の「学習の約束」や各教科における学習のルールなど学習規律の徹底を図るために指導を継続していく。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組の一つとして、教職員の ICT 活用技術の向上に努めるとともに、分かる授業の展開と個に応じたきめ細かな指導を行い、生徒の学力向上を図る。
- ・ボランティア活動の意義を理解させ、総合的な学習の時間や NFV (ニューフリーダムボランティア) 活動、地域の小学校との連携を図りながら多様な活動の場の提供に努め、生徒の自発性を育てる工夫をしていく。

#### 【生活部会】

- ・交通事故の発生や交通安全に対する地域からの苦情があった。一斉下校時の時差下校や、部活動終了後の下校指導など、継続的に取り組んでいきたい。また、交通安全教室において、講師の先生をお招きしての講話の他、通学路の危険箇所や注意喚起を行っていきたい。
- ・不登校傾向や不適應傾向の生徒が、校内教育支援センターを通して、学校に足を運べるようになってきた。利用する生徒の学年が異なっていることもあり、指導や支援が難しい場面もあるので、工夫・改善が必要な側面もある。

### 【健康（保健安全・食育）体力】

- ・新体力テストの分析をもとに、課題となるの補強運動を考察・実践し体力の向上に向けて指導をしていく。また、生徒が主体的に体育的行事や部活動に取り組めるよう教職員間で連携を図り計画的に指導をしていく。
- ・美化委員会活動において、清掃強化週間や美化コンクールを実施することで、環境を整えることができた。今後は特別教室も含めて、生徒自ら清掃に取り組めるような指導を継続していく。
- ・安全点検を行い、学校設備が原因になるケガや事故がないよう努めていくことが必要。しかし、施設の老朽化が進んでおり、修繕が必要な箇所がある。今後も確実に修繕していくことが必要となる。また、施設の修繕や改善状況(経過)を地域住民の方へ積極的に周知し理解していただきたい。
- ・給食後の歯みがき・ブクブクうがいの習慣化のため、教職員全体での日常的な指導や、生徒会保健委員会の啓発活動を継続していくことが必要である。また、地域学校園でも口腔指導の充実を図る。
- ・4校時終了後にチャイムを鳴らしたり、給食準備コンクール等を行ったりすることにより、給食準備のとりかかりが早くなり、十分な給食時間が確保され、残食が減ってきた。また、給食委員会活動で「残食ゼロを目指す日」を設け、生徒たちの食に対する意欲が出てきた。次年度も継続していきたい。

## 7 学校関係者評価

- ・「生徒は、校内外のボランティア活動へ積極的に参加し、自主性・主体性を身に付けるよう努めている」の生徒の肯定的回答が前年比で20ポイント以上高くなっており、大変素晴らしい結果が出ている。次年度も引き続き活発なボランティア活動が展開されることを期待している。
- ・地域の行事に、多くの生徒がボランティアスタッフとして、来客として参加し、盛り上げてくれている。来年度は、地域と学校で連携し、企画の段階から参加できるような体制を作り上げることを試みてはどうか。
- ・生徒は落ち着いて授業を受けている様子が伺えます。また、高い学力を維持している。今後もこの状況を継続できるよう先生方の指導をよろしくお願いしたい。
- ・今後もより小中一貫教育を進め、地域と協力し合って、子どもたちの成長を育ててほしいと感じた。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全評価29項目中、24項目で数値指標を達成することができ、日々の教育実践の成果を出すことができた。特に「小中一貫教育・地域学校園」や「業務の効率化」に関する評価項目においては、前年比11ポイント上昇するなど大きな成果が出ている。一方、「主体的に学習に取り組む」「英語を使ってのコミュニケーション」「宇都宮の良さ」「持続可能な社会」「交通ルールやマナー」に関する評価項目においては、数値指標を達成することができず、今後課題を残した。

- ・「業務の効率化」を更に進めるために、書類等のデータベース化や前年度からの引継ぎを確実に行うことや教職員一人一人がタイムマネジメントを意識し、業務の簡素化や内容の精選に取り組んでいく。
- 「小中一貫教育・地域学校園」においては、地域学校園の実態に即して、重点化を図る指導内容について小中の情報交換を行い、重点課題や具体的な指導内容・方法について共有できるようにしていく。また、オンラインの活用や合同行事など、小中間の連携に継続的に取り組み、小中協働の意識を高めていく。
- ・ボランティアの意義を理解させ、継続的に、校内外のボランティア活動への参加ができるように、一人一台端末を活用し学年や学級のクラスルームでの情報提供に今年度以上に力を入れていく。
- ・生徒が「主体的に学習に取り組む」ことができるように、自らの考え表現できる言語活動を充実させる場の設定を工夫するとともに、生徒の考えを引き出すことのできる指導法・技術を習得していくために校内研修を充実させていく。
- ・「英語を使ってのコミュニケーション」を充実させるために、授業の中で場面設定を工夫し、ペアやグループでコミュニケーションできる機会を設定したり、ALTの学校行事や給食への参加を通して、生きた英語に触れる機会を充実させ、英語で伝え合うことの楽しさを実感させる取り組みに力を入れていく。
- ・「宇都宮の良さ」を生徒が実感できるように、「宇都宮学」の指導の工夫を図り、宇都宮ブランドについて触れたり、宇都宮の良さについて調べたり、考えさせたりする授業を展開していく。また、地域の伝統や文化を取り上げた教材をもとに道徳の授業実践を進めていく。
- ・「持続可能な社会」について生徒の関心を高めるために、SDGsの17の目標の中から、中学生として特に必要と考えられる項目を精選し、教科・領域、その他の活動の中に割り当て、一歩踏み込んだ学習ができるような授業改善に取り組んでいく。

- ・「交通ルールやマナー」に関する意識向上を目指し、日々の学級指導や交通安全教室を通して、通学路の危険箇所や注意点を確認し、安全な登下校ができるように指導の徹底を図っていく。を行う。